

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 20

2009年5月発行

子どもから始める「障害をもつ子どもの自立に向けた支援～個人将来計画」

ほうぷでは、2007年度から「障害をもつ子どもの自立に向けた支援」をテーマに活動してきました。「自立」をキーワードにイベントを開催するとともに、子ども一人ひとりの「自立に向けた支援」を行うために、「子どもから始める個人将来計画」にかかわる活動を継続して取り組んできました。私たちは、障害をもつ子ども達とかかわっていく中で、子どもの声や子どもの思いが置き去りにされているのではないか、大人（保護者や支援者）が子どもの「できない点」や「弱い点」に焦点をあてて「能力」重視の「指導」を行なっているのではないか、そんな疑問を抱え続けてきました。子どもを取り巻く社会環境が悪化し、子どもたちが「守られる存在」として位置づけられ、大人主導の生活を強いられる現在において、「障害児」という以前に「権利行使の主体としての子ども」という視点を大切にしたいと考えてきました。

子どもにかかわる者にとって、子どものプラス面に焦点を当てて計画を作成することは、子どもの関心や興味を理解することであり、子どもへの見方を広げることに繋がります。また、子どもに何かをさせるために「計画」が必要なのではなく、支援者が子どものサポートに役立つための指針として「計画」が必要なのだと考えています。子どもの思いを周りの人たちが受けとめ、その思いを最優先にして、子どもがさまざまな人とともに、失敗も含めた体験を重ねるための計画作りや活動方法を試行錯誤して創ってきました。

昨年度は、その過程であがってきた様々な課題について地域で活動する障害当事者（ピアカウンセラー）、保護者、教師、医師、ヘルパーコーディネーターなどとともに、学習会や検討会を重ねました。地域の医療機関や教育機関とのネットワークづくりをしながら、課題を検討していく中で、その課題の多くは、社会や制度の問題、つまりは、大人の問題だと痛感させられました。「子どもから始める将来計画」は、「今」を生活している子どもの計画作りです。子どもを取り巻く「大人」たちの姿勢が問われる事業だと感じています。

これらをふまえて、今年度は、一人ひとりの子どもを取り巻く人たちと一緒に、計画の見直しを行うためのワークショップを開催し、計画を実践につなげながら、子どもの体験の幅をひろげる機会や、人と関わる力をつけていく機会を増やしていきたいと考えています。

<「子どもから始める個人将来計画」2008年度の事業報告>

◆「子どもから始める個人将来計画」検討会議

日時：2008年6月26日（木）18:00～20:30

場所：旭区在宅サービスセンター 多目的室

内容：昨年度の振り返りと今年度の取り組みについて



◆第1回 個人将来計画公開学習会

「障害をもつ子どもの高校生活について知ろう」

日時：2008年7月30日（水）18:00～20:30

場所：旭区在宅サービスセンター 多目的室

内容：高校を卒業した障害当事者Aさんを招き、Aさん・介助者・保護者より、高校生活のようすや、Aさんの思いを聞き、参加者で意見交換を行った。

◆個人将来計画ワークショップ

「Bさんの個人将来計画の作成見直しについて」

日時：2008年8月23日（ど）10:00～12:00

場所：大阪市立城北市民学習センター 会議室3

内容：Bさんに関わる教師、ヘルパー、ボランティア、友人、保護者が参加し、Bさんの個人将来計画の見直しを行なった。また、Bさんのライフヒストリーアルバムの作成に向けて話し合わせ、後日、学生ボランティアによってアルバムが作成された。

◆第2回 個人将来計画公開学習会

「障害をもつ子どもの生活を支える医療について
～子どもから始める個人将来計画と医療との連携～」

日時：2008年9月30日（火）18:30～21:00

場所：大阪市立城北市民学習センター 会議室3

内容：小児科の医師であり特別支援学校の校医であるC医師を招き、教育現場における医療的ケアの現状や課題をうかがい、医療的ケアを必要とする子どもの学校生活や日常生活を支えるために、学校や地域でどのようなシステムが必要とされているかなど、参加者で意見交換を行った。



◆第3回 個人将来計画公開学習会

「地域で生きていくための『特別支援教育』を考える
～子どもから始める個人将来計画と教育との連携～」

日時：2008年10月22日（水）18:30～21:00

場所：大阪市立城北市民学習センター 会議室1

内容：特別支援学校の教師であるD先生を招き、特別支援学校での特別支援教育の取り組みや地域との連携についてお話をうかがい、参加者で意見交換を行った。

◆第4回 個人将来計画公開学習会

「地域で生きていくための特別支援教育を考える Part 2

～事例から個人将来計画と教育との連携を考える～

日時：2008年12月1日（月）18:00～20:30

場所：旭区在宅サービスセンター 多目的室

内容：特別支援学校高等部の生徒の保護者であるEさんと支援者であるFさんを招き、卒業間近のお子さんの特別支援学校での取り組みや支援者を交えたケース会議のようす、自立に向けての思いをうかがい、参加者で意見交換を行った。

◆第5回 個人将来計画公開学習会

「カリフォルニア州における発達障害者の支援システムについて

～本人中心計画の仕組みを学ぶ～（米国研修報告）」

日時：2009年1月20日（火）18:00～20:30

場所：大阪市旭区在宅サービスセンター 多目的室

内容：検討委員よりカリフォルニア州への研修報告が行なわれた。ランターマン発達障害者サービス法に基づいて行なわれている発達障害者支援の現状について学び、とくに、ケアマネジメントを行う地域センター（RC）や、本人中心計画（IPP）の内容にかかわる情報を得て、参加者で意見交換を行った。

◆個人将来計画の今後の取り組みに向けて

日時：2009年3月20日（金）～21日（土）

場所：大阪府社会福祉会館

内容：研修会「こころでわかる支援者エンパワメントセミナー」（研修会主催：障害者と支援者をつなぐエンパワメント・プランニング協会）に参加。障害者支援のための講義（講師：浜田寿美男氏・村瀬学氏・高岡健氏、いずれも大学教員）を聴講し、日常的支援として個人将来計画にかかわる取り組みをしている支援者の話を聞いた。研修会后、検討委員5名で研修会の振り返りと、今年度の「子どもから始める個人将来計画」の取り組みの振り返り、及び、来年度に向けての意見交換を行った。

◆個別活動のサポート

障害をもつ子どもの個別活動に対して、ボランティアをコーディネートし、余暇の充実や自立にむけた活動を継続的に行なった。

日時：随時

参加者：子ども のべ 49名、ボランティア のべ 51名

内容：子どもと遊ぶ、外出する、プールに行く、勉強するなど



● 2008年度活動報告 ●

1. 音楽広場の開催

活動内容：障害をもつ子どもが、保護者から離れて個別に、音楽療法士や学生ボランティアと共にそれぞれのペースで音楽を楽しんだ。音楽療法士は専門性を用いながら子どもの暮らしを支える視点を大切に活動をし、毎回、記録を取り、それぞれの子どもに「広場通信」を送付した。

開催日：音楽活動（2008年5月～2009年2月・月1回計10回）、交流会（2008年4月と2009年3月の2回）

場 所：大阪市立両国人権文化センター 講堂（音楽活動）・講習室（2009.3交流会）

参加者：障害児のべ95人、保護者のべ15人（交流会）、ボランティアのべ21人

助 成：大阪府福祉基金地域福祉振興助成金

2. レクリエーションイベントと保護者交流会の開催

障害児とその兄弟姉妹の余暇の充実をはかるとともに、自立に向けた支援の一環として、買物・調理・食事に取り組むレクリエーションイベントを2回開催。年齢の近い学生ボランティアとともに試行錯誤しながら、子ども自身が調理にチャレンジすることを大切に活動した。また、イベントの企画運営を大学生が担当し、ほうふのスタッフや専門職のボランティアが運営をサポートした。イベント終了後に活動を振り返る機会を設け、ボランティア養成につなげることにした。「調理」や「食事」という活動を媒介することによって子どもの体験の幅が広がり、また、さまざまな立場の者のコミュニケーションが促されることを再確認したイベントだった。

また、保護者向けのイベントを同時に開催した。①保護者ワークショップでは、さまざまな障害をもち、さまざまな生い立ちの障害当事者の方々に「自立」をテーマにお話をいただき、その後、意見交換や感想を述べ合った。②保護者交流会では、義務教育終了後の進路について、先輩保護者から高校進学の話聞き、意見交換を行った。

①「お買い物&クッキング」と「保護者ワークショップ『自立について考えよう』」

開催日：2008年7月12日（土）11：00～15：00

場 所：大阪市立旭区民センター 調理室（レクリエーション）・集会室3（交流会）

参加者：障害児とその兄弟姉妹13人、保護者10人、ボランティア27人

助 成：大阪ガス“小さな灯”運動助成金

②「みんなで楽しくクッキング&おかいもの」と「障害をもつ子どもの保護者交流会」

開催日：2008年11月23日（日）11：00～15：00

場 所：大阪市立旭区民センター 調理室（レクリエーション）・集会室1（交流会）

参加者：障害児とその兄弟姉妹12人、保護者9人、ボランティア28人

助 成：大阪府福祉基金地域福祉振興助成金

3. 個人将来計画の作成と実践、及び、個別活動のサポート

2～3 ページに報告。様々な立場の人が参加し、計画の作成と実践・振り返りを行なった。障害者自立生活支援センター、ヘルパー事業者、小児科医と連携し、「障害児の自立に向けた個人将来計画」作成において、課題となる教育・医療との連携などに関する検討と学習会を計8回行なった。また、子どもの余暇を充実させるために、ボランティアをコーディネートし、それぞれの子どものニーズに応じた個別活動を随時支援し、制度でできない部分の社会参加のサポートを行なった。

4. その他

ほうぶ設立当初からの事業である、セルフヘルプグループの支援、ネットワークの構築、まちづくりの活動、講座や研修会の講師などについて、以下の活動を継続的に取り組んだ。

①セルフヘルプグループや地域密着ネットワークのサポート

あさひ不登校ねっと・医療的ケアの必要な子どもの家族の会「こころ」・草の根ネットワーク「ねっこ」・あさひ子育てネットワーク「きしゃぼっぽ」・不登校児の親の会「サークル虹」など、当事者会や地域密着のネットワークにおいて、定例会の参加やボランティアコーディネート、研修会や講座開催のサポートなどを行なった。

②「あさひあったかまちづくり計画」(旭区アクションプラン)への参加

大阪市のフロンティア事業「あさひ あったか きち」の企画や開催準備と、開催中のイベントや店番ボランティアのコーディネートを行なった。

③講座や研修会の講師

大阪市の公共機関でのボランティア講座や生涯学習講座、大学や専門学校での地域福祉の授業、ヘルパー養成講座などの講師を行なった。



● ボランティア募集 ●

“ほうぶ”では、個人将来計画の作成事業において、子どもの余暇活動のサポートなどを行ってくださるボランティアを募集しています。子どもの自立に向けた支援という創造的な活動を一緒にしませんか？子どもと一緒にいろんな出会いや体験をしませんか？子どもと楽しい時間を作ってください。大学の卒業論文のテーマとしても面白いと思います。個人将来計画作成の検討会や勉強会に参加して学ぶこともできます。

お申し込み先：NPO法人地域生活サポートネットほうぶ

Tel・Fax 06-6953-2655 E-mail houpu@river.sannet.ne.jp

(ご連絡いただいた情報は、ボランティア保険と[ほうぶ]との連絡にのみ使用し、それ以外には使用しません)

★ ほうぷスタッフの子育てコラム★ ～子育て中のほうぷスタッフの想い～

〈Puku ママ〉

私は3歳4ヶ月と1歳2ヶ月の子どもの母親です。この4月から育休明けで職場復帰をするために、下の子の保育所入所の申し込みをしました。通勤と送り迎えの状況を考えて、上の子が通っている保育所と同じ保育所を希望しました。しかし、届いたのは保留通知書…。育休明けでおそらく入れるだろうと、高をくくっていただけに、大きなショックで落ち込みました。ショックは次第に「下の子の預け先をどうしよう」という現実問題に変わっていきました。役所に問い合わせたり、家の近くの無認可保育所を探したりしました。ストレスから帯状疱疹にもなりました。結局、何とか別の保育所に行けることになりました。

上の子と同じ保育所に入ることができた人を妬ましく思ったこともありました。でも、少し時間が経つと、すんなりと保育所入所できていたら経験できなかったであろうという思いをさせてもらったという気持ちになりました。

落ち込んだ時、3つの言葉が私を救ってくれました。1つは夫から言われた言葉。「すべてが縁あってのこと。お兄ちゃんと同じ保育所には縁がなかったけど、その分、違う保育所に縁があった。物事すべて考え方の問題だよ」。そして、2つ目は母から言われた一言。「違う保育所に通うことで2箇所に通わせているお母さんたちの大変さが本当の意味でわかるし、違う保育所を見れることで自分の経験値も上がるんじゃない」。最後はテレビを見ていて、「人の幸せをうらやむんじゃないで、その姿を見て、自分ももっと幸せになろうって思ったほうが自分も幸せ。」という言葉。その言葉ひとつひとつが、「同じ保育所に入れなかった」「2箇所で大変」とばかり考えるのではなくて、違う保育所に入れたことでできる経験もあるだろうし、「そのことを楽しんでしまえっ！」と思わせてくれました。

今思えば、私の場合、保育所に入れなかったことが命にかかわることでもないし、考えようによってはたいしたことではないはずなのに、その時の私は一心に不幸を背負った気持ちになっていました。今回は幸いにも別の保育所に入ることができましたが、入れなかったとしても、きっと、立ち直ってそれなりに生活していくものだろうし、同じ時間なら「何とかなるもんだ！」って考えたほうが幸せになれる気がしました。

今、私は2つの保育所の送り迎えで忙しい毎日を送っています。しんどい時もありますが、各々の保育所の良いところを育児に取り入れたりすることができるし、預けることができたことがすごく幸せなことで、働くことができることを今まで以上に幸せに感じるようになりました。今回の経験は私にとっては、母としても女性としても成長できた貴重な体験となった気がしています。まだ預け始めたばかりでしんどいことはこれからだと思いますが、私を救ってくれた3つの言葉を思い出してこれからも頑張っていきたいなあと思っています。



●講座やイベントのお知らせ●

★講座のお知らせ

子ども情報研究センター 第31回人権保育・教育連続講座

新「保育所保育指針」理論と実践 ～子どもの人権を大切に作る保育を、ともに～

日時：6月2日(火)、10日(水)、17日(水)、24日(水)、7月1日(水)、5回

いずれも 14:30～16:30 (受付14:00～) 締め切り 5月20日

参加費：全講10,000円 (1講2,000円)

会場：pia NPO 6階大会議室 (大阪市営地下鉄中央線「大阪港」駅から徒歩4分)

主催(問合せ・申し込み先)：(社)子ども情報研究センター

TEL 06-4708-7087 FAX 06-6577-1893 mail info@kojoken.jp

〒552-0021 大阪市港区築港 2-8-24 pia NPO 307 号室

6月2日(火)「子どもの権利条約」と保育～条約採択20年を迎えて 堀正嗣氏

7月1日(水)障がいをもつ子どももたない子どもともに育つ～特別支援教育を超えて堀智晴氏

★集会のお知らせ

障害者権利条約批准・インクルーシブ教育推進ネットワーク大阪集会

いっしょがええやん! ～ともに学ぶ教育をつくろう!～

日時：6月6日(土) 13:00～16:00 資料代：1,000円

会場：大阪市立北区民センター 大ホール

(大阪市北区扇町2-1-27) JR環状線天満駅・地下鉄堺筋線扇町

講師：浅野史郎さん(慶応義塾大学教授・前宮城県知事)

主催：障害者権利条約批准・インクルーシブ教育推進ネットワーク

後援：大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会

★イベントのお知らせ

「楽しく広げよう子育てのWA!」 おはなしの会

日時：7月2日(木) 10:30～11:30 参加費：無料

会場：大阪市立城北市民学習センター 講堂

地下鉄谷町線関目高殿駅④出口から200m、今里線関目成育駅②出口から300m、

京阪電車関目駅から300m、大阪市バス高殿下車60m

講師：おはなしの会 まじょ魔女

主催：大阪市立城北市民学習センター 協力：あさひ子育てネットワークきしゃぽっぽ

会報の発行が遅くなってしまいました。新年度が始まって、自身の異動や配置換え、子どもの学校生活の変化など、ほうぶのスタッフ達はそれぞれ、公私共に生活が変わり忙しい日々を送っています。それでも、ほうぶの活動は続けていきたい!と強く思っています。今年は5周年を迎えます。初秋に5周年記念のイベントを予定しています。皆さんに感謝をし、皆さんの思いを伺い、今後の事業内容の見直しをしたいと考えています。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

